

建築物耐震改修計画評定委員会申請図書作成要領

(株)サッコウケン

建築物耐震診断判定・耐震改修計画評定委員会

(以下委員会という。)

本要領は、耐震改修計画又は、耐震診断判定・改修計画の評定申請（以下「評定申請」という。）に伴い、申請者が作成し、株式会社サッコウケン（以下「SKK」という。）に提出する必要がある図書等（以下「耐震改修計画等評定申請図書等」という。）に係る必要事項を定めるものである。

「耐震改修評定申請」・「耐震改修計画評定」

第1 耐震改修計画等評定申請図書の種類

1-1 耐震改修計画等評定申請図書等は、耐震改修計画等評定図書（以下「申請図書」という。）及び、評定申請後、委員会における審査過程において、追加提出が必要となった資料等（以下「追加資料」という。）とする。

1-2 申請図書は次の2種類とする。

- (1) 耐震改修計画評定委員会用（以下「委員会用図書」という。）
- (2) 評定書（評定通知後に提出のこと）

1-3 申請図書の提出期限及び部数は、次のとおりとする

申請図書の種類	提出期限	提出部数
(1) 委員会用図書	評定申請時	説明書 : 4部 図面 : 4部 参考資料 : 4部
(2) 評定書	評定通知書の受理後10日以内	正本 : 1部 副本 : 1部

1-4 追加資料の種類及びその内容は、次のとおりとする。

申請図書の種類	追加資料の内容
(1) 第1回委員会	—
(2) 第2回委員会	第1回委員会における指摘事項対応の評定経過報告書及び必要資料等

第2 委員会用図書の作成方法

2-1 委員会用図書は、原則としてA4版（図面はA3版）左綴じとし、ページをつけること。

2-2 委員会用図書は、表紙、目次及び本文（「説明書」、「図面」及び「参考資料」）から構成すること。

2-3 委員会用図書「報告書」の作成方法

本文には、別に定める「評定経過報告書（様式2）」により作成するほか、原則として自由とする。

2-4 委員会用図書「申請図面」の作成方法

各図の構成は、下記の内容が明示されているものであれば、SKK から指示等があった場合を除き、原則として自由とする。

- (1) 案内図、配置図（評定申請対象建物を明示すること。）
- (2) 現況図（各階平面図、立面図、矩計図、伏せ図、軸組図、断面リスト等）
- (3) 改修計画図（各階平面図、伏せ図、軸組図、詳細図等）

2-5 委員会用図書「参考資料」の作成方法

- (1) 委員会におけるヒアリング時には、2-4 委員会用図書「報告書」によって、申請者側が、説明、あるいは質疑に対する対応を行うので、その際、説明を補助するうえで、必要な資料をあらかじめ、委員会用図書「参考資料」としてまとめること
- (2) 本文の構成例を下記に示すが、関連する内容（耐震改修計画評定にあつては、a、bにかえて評定機関等による評定書等の写し及び関連資料を、添付すること。）が明示されているものであれば、SKK の指示等があった場合を除き原則として自由とす

る。

- a 建築物調査に係る資料
 - ア) 現況写真（外観、内観、エキスパンションジョイント、鉄骨溶接部等）
 - イ) 設計図書調査記録
 - ウ) 履歴・外観（ひび割れ・剥離・鉄筋露出・錆垂れ等の劣化状況を含む）・部材形状・溶接部等調査記録
 - エ) レベル測定記録
 - オ) コンクリート強度及び中性化試験記録等（参考）
 - カ) 地盤調査資料
 - キ) その他必要と思われる資料
- b 現状建築物の耐震診断の計算結果に係る資料
 - ア) 建物重量に関する資料
 - イ) 架構のモデル化
 - ウ) 計算結果一覧
 - エ) 形状指標、経年指標算出根拠、
 - オ) C－F関係グラフ
 - カ) 部材の破壊モード図
 - キ) 第2種構造要素の判別に係る資料
 - ク) 各部の検討資料
 - ケ) その他根拠となる資料
- c 改修建築物の耐震診断の計算結果に係る資料
 - ア) 建物重量に関する資料
 - イ) 架構のモデル化
 - ウ) 計算結果一覧
 - エ) 形状指標、経年指標算出根拠
 - オ) C－F関係グラフ
 - カ) 部材の破壊モード図
 - キ) 各部の改修設計に関する資料
 - ク) その他根拠となる資料
- d その他
なお、耐震診断の計算結果に係る資料のうち、電算プログラムの説明書、電算のインプット等は、原則として添付を要しないが、別途指示があれば添付のこと。

第3 第2回委員会用追加資料の作成方法

- 3-1 第2回委員会追加資料は、第1回委員会における指摘事項に対応して作成すること。
- 3-2 第2回委員会追加資料の作成方法は、第2に準じて作成すること。
- 3-3 第2回委員会追加資料の頁は、第1回委員会資料の頁を基に差替・追加等が解るように頁を付けること。

第4 評定書の作成方法（評価書受領後の提出になります。）

- 4-1 評定書は、正本・副本からなる。
- 4-2 評定書の作成方法
 - (1) 製本は、A4版、左綴じとすること。
 - (2) 構成は、下記のとおりとすること。
 - a 表紙・背表紙

- b 白紙
 - c 耐震改修計画評定申請書（様式1）
 - d 耐震改修計画評定通知書（SKKが発行する通知書）
 - e 評価書（SKKが発行する評価書）
 - f 評定経過報告書（様式2）
 - g 内表紙
 - h 目次
 - i 委員会用図書
 - j 追加資料（追加の図面資料を含む）
 - k 裏表紙
- (3) 評定経過報告書は、委員会開催順に組み入れること。
- (4) 委員会用図書は、各委員会における指摘事項に関連する部分については、必ず対応し、訂正等を行ったものであること。
- (5) 表紙・背表紙は下記の体裁とすることを原則とする。

<p style="text-align: center;">耐震改修計画評定委員会 評定番号 第●●号</p> <p style="text-align: center;">●●●●ビル 耐震改修計画</p> <p style="text-align: center;">評定 平成●●年●●月</p> <p style="text-align: center;">申請者 株式会社●●●●●●</p> <p style="text-align: center;">設計者 株式会社●●●●●●設計事務所</p>	<p style="text-align: center;">耐震改修計画評定委員会 評定番号 第●●号</p> <p style="text-align: center;">●●●●●●ビル 耐震改修計画</p> <p style="text-align: center;">評定 平成●●年●●月</p> <p>申請者 : 株式会社●●●●●●</p> <p>設計者 : 株式会社●●●●●●設計事務所</p>
---	---

(評定申請説明書様式)

(参考例)

〇〇市立△□中学校

耐震改修計画評定説明書

平成 年 月

申請者 : 株式会社〇〇〇〇〇

設計者 : 〇〇建築設計事務所

※「耐震改修評定」の場合の目次例を示す。

目 次

1. 一般事項（様式 3）
2. 建物概要
 - ・ 外観写真、内観写真、エキスパンションジョイントの状況写真等
 - ・ 案内図、配置図、各階平面図、立面図、矩計図、詳細図等
 - ・ 杭伏図、基礎伏図、軸組図、部材リスト、部分（架構）詳細図等
3. 建物調査結果
 - 3-1 調査結果一覧（様式 4）
 - 3-2 調査結果の考察
4. 耐震診断指標（様式5または様式6）
 - 4-1 準拠基準・使用材料等
 - 4-2 診断計算の方針（モデル化・計算条件等）
5. 現状の診断結果
 - 5-1 現状の診断結果
 - 5-2 現状の診断結果の考察
6. 改修計画概要（様式7）
7. 改修後の診断結果
 - 7-1 改修後の診断結果（様式8）
 - 7-2 I s 指標比較グラフ（現状・改修後の結果を同一グラフ上に表示）
 - 7-3 改修後の診断結果の考察
8. 総合所見
 - ・ 耐震性、地盤の液状化の判定結果、基礎の検討結果、レベル測定結果、中性化の進行の推定と建物への影響、その他の劣化状況（錆・ひび割れ等）と対処方法、煙突・庇・塔屋等屋上突出物の耐震性の検討結果、その他改修設計にて検討したことのまとめ
9. 改修図面
 - ・ 仕様書、伏図、軸組図、改修詳細図等
10. 参考資料-1（※改修設計に用いた資料、計算書等）
 - ・ 改修設計時に追加調査した現地調査資料（調査位置図、外観劣化、ひび割れ、レベル測定、鉄骨部材実態調査、溶接部、コンクリート強度試験、コンクリート中性化試験、エキスパンションジョイントのクリアランス等）
 - ・ 今後のコンクリート中性化の深さの推定
 - ・ C-F関係グラフ（改修前・後を同一線上に示したもの）
 - ・ 破壊モード図（平面、軸組形式等）
 - ・ 各部検討資料（接合部の検討、地盤の液状化、基礎（杭）の検討、部材耐力計算、耐震壁の耐力評価、耐震壁の開口補強筋の検討、煙突・庇・鉄骨階段等の付属物の検討等、形状指標、経年指標の根拠、偏心率、剛性率等）
 - ・ その他改修設計に必要とした資料（地盤調査資料、特殊工法技術資料等）
11. 参考資料-2（※耐震診断時に用いた資料、計算書等の抜粋）
 - ・ 評定機関等の評定書（例（社）北海道建築設計事務所協会耐震診断判定委員会の判定書等）の写し
 - ・ 耐震診断時の経過報告書
 - ・ 耐震診断時の調査関連資料
 - ・ 現地調査関連資料、部材の確認資料、外観劣化調査資料、レベル測定結果、コンクリート強度試験結果、コンクリート中性化試験結果
 - ・ 耐震診断結果に係る資料
 - ・ 経年指標、形状指標の算出根拠、偏心率、剛性率、破壊モード図
 - ・ 診断結果、所見

※「耐震改修計画評定」の場合の目次例を示す。

目 次

1. 一般事項（様式 3）
2. 建物概要
 - ・ 外観写真、内観写真、エキスパンションジョイントの状況写真等
 - ・ 案内図、配置図、各階平面図、立面図、矩計図、詳細図等
 - ・ 杭伏図、基礎伏図、軸組図、部材リスト、部分（架構）詳細図等
3. 建物調査結果
 - 3-1 調査結果一覧（様式 4）
 - 3-2 調査結果の考察
4. 耐震診断指標（様式5または様式6）
 - 4-1 準拠基準・使用材料等
 - 4-2 診断計算の方針（モデル化・計算条件等）
5. 現状の診断結果
 - 5-1 現状の診断結果
 - 5-2 現状の診断結果の考察
6. 改修計画概要（様式 7）
7. 改修後の診断結果
 - 7-1 改修後の診断結果（様式 8）
 - 7-2 I_s 指標比較グラフ（現状・改修後の結果を同一グラフ上に表示）
 - 7-3 改修後の診断結果の考察
8. 総合所見
 - ・ 耐震性、地盤の液状化の判定結果、基礎の検討結果、レベル測定結果、中性化の進行の推定とその影響、その他の劣化状況（錆・ひび割れ等）と対処方法、煙突・庇・塔屋等屋上突出物の耐震性の検討結果、その他改修設計に行った検討結果のまとめと所見
9. 改修図面
 - ・ 仕様書、伏図、軸組図、改修詳細図
10. 参考資料
 - ・ 現地調査資料（調査位置図、外観劣化、ひび割れ、レベル測定、鉄骨部材実態調査、溶接部、コンクリート強度試験、コンクリート中性化試験、エキスパンションジョイントのクリアランス等）
 - ・ 今後のコンクリート中性化の深さの推定
 - ・ C-F 関係グラフ（改修前・後を同一線上に示したもの）
 - ・ 耐震診断結果一覧表（各階について（4）式（5）式の別破壊形式等、採用したものが分かるように示してください）
 - ・ 破壊モード図（平面、軸組形式等）
 - ・ 各部検討資料（接合部の検討、地盤の液状化、基礎（杭）の検討、部材耐力計算、耐震壁の耐力評価、耐震壁の開口補強筋の検討、煙突・庇・鉄骨階段等の付属物の検討等、形状指標、経年指標の根拠、偏心率、剛性率）
 - ・ その他改修設計に必要とした資料（地盤調査資料、特殊工法技術資料等）

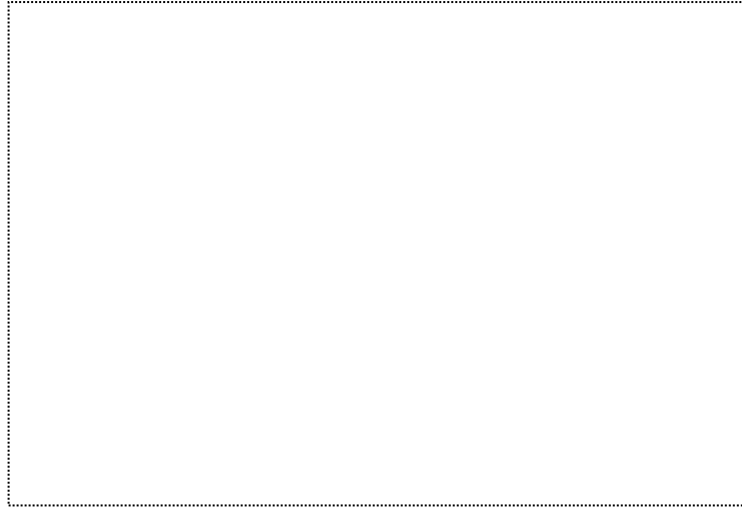
(様式 3)

1. 一般事項

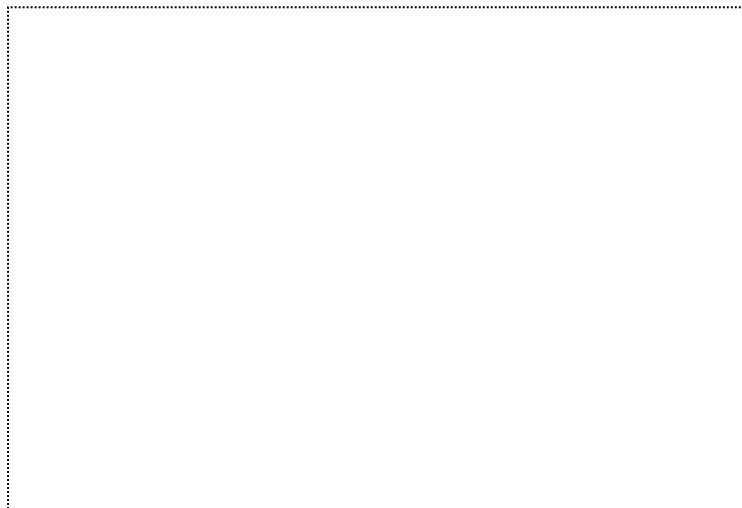
建物の名称					
申請者					
診断改修設計等	建築		既存建物設計等	建築	
	構造			構造	
	監理			監理	
	施工			施工	
建築場所					
用途					
面積	敷地面積	m ²	建築面積	m ²	
	延べ面積	m ²	基準階面積	m ²	
高さ	軒高	m	最高部高さ	m	
	基準階の階高	m	地階の階高	m	
建物履歴	設計年月	昭和 年((西暦)年) 月	(変更の規模・状況) ※増・改築、火災、震災、用途変更の履歴・規模等の状況を記入してください。		
	竣工年月	昭和 年((西暦)年) 月			
	増築・改築				
	火災・震災				
	用途・変更				
構造概要	階数	地上 階 ・ 地下 階 ・ 塔屋 階			
	構造種別				
	基礎・地業	※基礎形状(独立基礎・布基礎・べた基礎)・支持形式(直接基礎・杭基礎等)の区別、地盤及び杭の許容支持力、杭径、杭長等を記入してください。 (工法名 :)			
地盤概要	地盤種別	1種 ・ 2種 ・ 3種 ※該当するものに○印をつける			
	敷地概況	埋立地 ・ 軟弱地盤 ・ 水田 ・ 崖地 ・ その他			
	支持地盤				
仕上概要	屋根		外壁		
	床				
	その他	Exp. J・煙突・突出看板・鉄骨階段・その他 () ※屋上突出物がある場合は該当するものを記入する			
現状に関する診断結果の評定等	機関名 : 平成 年 月 日 第 号 診断者 :				

2. 建物概要

注) 外観写真は、建物全体が判る様外観写真を数枚添付してください。



【**面 外観写真】



【**面 外観写真】



【内観写真】

案内図・配置図

- 注) 図面はA3版として下さい。縮小する場合は文字が読める程度として下さい(各図面共通)
- 注) 建物概要での図面は原則既存図として下さい。
- 注) 配置図には、網かけ、色分け等により対象建物が判別しやすくして下さい。また、EXP.Jの位置も明示して下さい。

各階平面図

- 注) エキスパンションジョイントがあればその位置を記入して下さい。
- 注) 複数工区に分けて建設されている場合は、建設年次とその範囲を明示して下さい。
- 注) X、Y方向の区別を明示して下さい。
- 注) 大規模修繕等を伴う場合はその前後が判る図面として下さい。

立面図

断面図・矩計図

その他詳細図

注) 付属物や、エキスパンションジョイント等の詳細図を添付してください。

杭伏図
基礎伏図

各階床伏図

- 注) X、Y の方向を明示してください。
- 注) エキスパンションジョイントの位置を明示してください。
- 注) 複数工区に分けて建設されている場合は、建設年次とその範囲を明示してください。

軸組図

断面リスト

架構詳細図等

部分詳細図等

(様式 4)

3. 建物調査結果

3-1 調査結果概要

図面等の有無	構造図	: 有 ・ 無	
	意匠図	: 有 ・ 無	
	構造計算書	: 有 ・ 無	
図面照合	柱	: 整合 ・ 不整合	<p>(コメント)</p> <p>※照合した程度、整合の状況等について簡潔にまとめる。</p> <p>※鉄骨溶接部やボルト接合部の状況についてもコメントする。</p>
	梁	: 整合 ・ 不整合	
	壁	: 整合 ・ 不整合	
		: 整合 ・ 不整合	
構造躯体調査	外観劣化調査 (鉄骨部材調査を含む)	(コメント) ※調査の範囲、劣化状況を簡潔にまとめる	
	コンクリート強度 (設計基準強度: $F_c = N/mm^2$)	調査方法: 調査箇所: 箇所 平均強度: N/mm^2 標準偏差: N/mm^2 推定強度: N/mm^2	
	コンクリートの中性化深さ	調査箇所: 箇所 最小値: mm 最大値: mm 平均値: mm	
	鉄筋調査	配筋状態:	
		降伏点: N/mm^2	
	鉄骨調査	降伏点: N/mm^2	

注)

- ・ 上表は適宜、欄を広げて記入してください。上記以外に調査した項目（レベル測定結果、エクスパンションの状況、他）についても適宜記入してください。
- ・ 各欄の該当するものに○印、又は必要事項を記入してください。
- ・ 「改修設計」での申請の場合は、各調査項目の調査時期を明確にすること。（他評定機関等による耐震診断判定に用いた時の調査結果を引用している場合や、それに加え改修設計時に新たに調査を行った場合はその時期の区別が判るように整理してください。）

3-2 調査結果の考察

※ 調査結果に対する所見を記入してください（別紙に添付して提出も可）

(様式 5)

4. 耐震診断指標 (※鉄骨造と鉄筋コンクリート造の混合構造の場合)

4-1. 準拠基準・使用材料等

耐震性能	鉄骨造	準拠耐震診断基準			
		使用計算プログラム		(Ver)	
		構造耐震判定指標	I_{SO}	現状診断判定用： 、改修後診断判定用：	
		q指標		現状診断判定用： 、改修後診断判定用：	
	RC造	準拠耐震診断基準		(次診断)	
		使用計算プログラム		(Ver)	
		耐震判定基本指標	E_s		
		構造耐震判定指標	I_{SO}	現状診断判定用： 、改修後診断判定用：	
		累積強度指標	$C_{TU} \cdot S_D$	現状診断判定用： 、改修後診断判定用：	
	共通事項	地下室の有無		有 ・ 無	
		地盤指標	G		
		用途指標	U		
地域指標		Z			
使用材料	コンクリート強度	階	F_c	: N/mm^2	
		階	F_c	: N/mm^2	
		改修用	F_c	: N/mm^2	
	鉄筋材種 鉄筋降伏点	柱主筋	SD	: $N/mm^2 \cdot$	
		帯筋	SD	: $N/mm^2 \cdot$ 間隔	
		梁主筋	SD	: $N/mm^2 \cdot$	
		肋筋	SD	: $N/mm^2 \cdot$ 間隔	
		壁主筋	SD	: $N/mm^2 \cdot$ 間隔	
		改修用	SD	: $N/mm^2 \cdot$	
			SD	: $N/mm^2 \cdot$	
	鉄骨材種 鉄骨降伏点	柱	SS	: N/mm^2	
		梁	SS	: N/mm^2	
		ブレース	SS	: N/mm^2	
		ボルト		: N/mm^2	
		改修用	SS	: N/mm^2	
	F T	: N/mm^2			
その他	第2種構造要素	有 ・ 無	(有の場合の処置、計算上の処置について記入)		
	3次診断の場合	計算方法			
	建物重量			改修前： KN/m^2 、	改修後： KN/m^2
		増減の理由			
	積雪荷重：垂直最深積雪量		現行	cm (設計時	cm)

(様式 6)

4. 耐震診断指標 (※鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造の場合)

4-1. 準拠基準・使用材料等

耐震性能	準拠耐震診断基準		(次診断)	
	使用計算プログラム		(Ver)	
	耐震判定基本指標	E_s		
	地下室の有無		有 ・ 無	
	地盤指標	G		
	用途指標	U		
	地域指標	Z		
	構造耐震判定指標	I_{SO}	現状診断判定用 : 、改修後診断判定用 :	
	累積強度指標	$C_{TU} \cdot S_D$	現状診断判定用 : 、改修後診断判定用 :	
使用材料 (※計算に用いる値を記入してください)	コンクリート強度	階	F_c : N/mm^2	
		階	F_c : N/mm^2	
		改修用	F_c : N/mm^2	
	鉄筋材種 鉄筋降伏点	柱主筋	S_D : $N/mm^2 \cdot$	
		帯筋	S_D : $N/mm^2 \cdot$ 間隔	
		梁主筋	S_D : $N/mm^2 \cdot$	
		肋筋	S_D : $N/mm^2 \cdot$ 間隔	
		壁主筋	S_D : $N/mm^2 \cdot$ 間隔	
		改修用	S_D : $N/mm^2 \cdot$ S_D : $N/mm^2 \cdot$	
	鉄骨材種 鉄骨降伏点	柱	S_S : N/mm^2	
		梁	S_S : N/mm^2	
		ブレース	S_S : N/mm^2	
		ボルト	: N/mm^2	
		改修用	S_S : N/mm^2 F_T : N/mm^2	
	その他	第2種構造要素	有 ・ 無	(有の場合の処置、計算上の処置について記入)
3次診断の場合		計算方法		
建物重量			改修前 : KN/m^2 、改修後 : KN/m^2	
		増減の理由		
積雪荷重 : 垂直最深積雪量		現行	cm (設計時	cm)

- 注) 準拠基準により地域係数の扱いが異なる場合（構造耐震判定指標(Iso)に地域係数を考慮する場合や、構造耐震診断指標(Is)に地域係数を考慮する場合)があるので、本評定説明書中ではどのように扱っているか必要に応じて補足説明を加えてください。
- 注) 鉄筋・鉄骨の材種の記号は適宜書き換えてください。(SR、SM等)

4-2. 診断計算の方針（モデル化・計算条件等）

注) 計算にあたりモデル化、計算条件等や、計算にあたり配慮したことを明示してください。

例 ・ 計算の方針

- ・ 塔屋、付属物（庇、煙突、高いパラペット等の）及び帳壁についての検討方針
- ・ ゾーニングによる検討の場合のゾーニングの方法と判定方針
- ・ 耐震壁とするか、袖壁・腰・たれ壁等とするかの判断条件
- ・ 積雪荷重の鉛直荷重時・水平荷重時の扱い
- ・ 逆梁等梁に段差がある場合のモデル化
- ・ ウォールガーター等、柱に偏心して取り付く場合の柱せん断耐力の低減
- ・ その他計算の際に配慮したこと
- ・ 設計施工係数等への配慮
- ・ その他

5. 現状の診断結果

5-1 現状の診断結果

注)

- ・表中の項目は構造に合わせ適宜修正してください。
- ・電算の出力結果を添付しての提出も可能です。

X方向 (L→R) (次診断)									
階	C	F	Type	E ₀	S _D	T	I _S	C _{TU} ・S _D	判定

X方向 (R→L) (次診断)									
階	C	F	Type	E ₀	S _D	T	I _S	C _{TU} ・S _D	判定

Y方向 (L→R) (次診断)									
階	C	F	Type	E ₀	S _D	T	I _S	C _{TU} ・S _D	判定

Y方向 (R→L) (次診断)									
階	C	F	Type	E ₀	S _D	T	I _S	C _{TU} ・S _D	判定

注1) Type

MC : 曲げ柱、MW : 曲げ壁、SC : せん断柱、SW : せん断壁、BC : 極脆性柱 (2次診断)

MG : 曲げ梁支配型柱、SG : せん断梁支配型柱、AW : 回転壁 (3次診断)

注2) () 内は、極脆性柱を考慮した場合の指標値

注3) [] 内は、せん断柱を考慮した場合の指標値 (5) 式にて算定

5-2 現状の診断結果の考察

注)

- ・現況の診断結果については、建物調査結果、計算結果を踏まえ、現状建物の構造的特徴とも関連づけて診断結果について、診断者としての総合判断を行い取りまとめてください。
- ・他の評定機関等で受けた耐震診断の判定結果を利用している場合はその旨を明記してください。
- ・耐震診断者と改修設計者が異なる場合等で、今回の再診断している場合は別表に併記し、数値や判定結果に差異がある場合には、その要因と今回の診断結果の妥当性を示してください。
- ・診断時に検討している付属物 (庇・外部鉄骨階段、庇、基礎(杭)、地盤等の検討結果についても明記してください。

(様式 7)

6. 耐震改修計画概要

架構形式 種 別	階区分	X方向		Y方向	
		構造種別	架構種別	構造種別	架構種別
種 別	階～ 階				
	階～ 階				
改修方法 耐震壁 ブレース その他	階～ 階				
	階～ 階				
	階～ 階				
現状建物の 構造的特徴	<p>※構造的特徴のほか、耐震性を決定づけている要因などを記入してください ※補強を必要とする階・方向とそれらの I_s 等の値を示してください。</p>				
改修設計 の方針	<p>※以下の項目について記入してください。 ・改修設計での目標値、確認（検討）方法、モデル化等について ・改修後の供用期間について ・その他改修設計の方針について記入してください。</p>				

注)

- ・「架構形式・種別」欄について
 「構造種別」には、鉄筋コンクリート造、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造等の区別を記入してください。
 「架構形式」には、ラーメン架構、耐震壁付きラーメン架構、ブレース架構等を記入してください。
- ・「改修方法（耐震壁、ブレース、その他）」欄には耐震改修に用いる方法を記入してください。
- ・各欄とも必要に応じ、欄を広げるか別紙を添付してください。

(様式 8)

7. 改修後の診断結果

7-1 改修後の診断結果

注)

- ・表中の項目は構造に合わせ適宜修正してください。
- ・電算の出力結果を添付でも提出可能です。

X方向 (L→R) (次診断)									
階	C	F	Type	E_o	S_D	T	I_s	$C_{TU} \cdot S_D$	判定

X方向 (R→L) (次診断)									
階	C	F	Type	E_o	S_D	T	I_s	$C_{TU} \cdot S_D$	判定

Y方向 (L→R) (次診断)									
階	C	F	Type	E_o	S_D	T	I_s	$C_{TU} \cdot S_D$	判定

Y方向 (R→L) (次診断)									
階	C	F	Type	E_o	S_D	T	I_s	$C_{TU} \cdot S_D$	判定

注1) Type

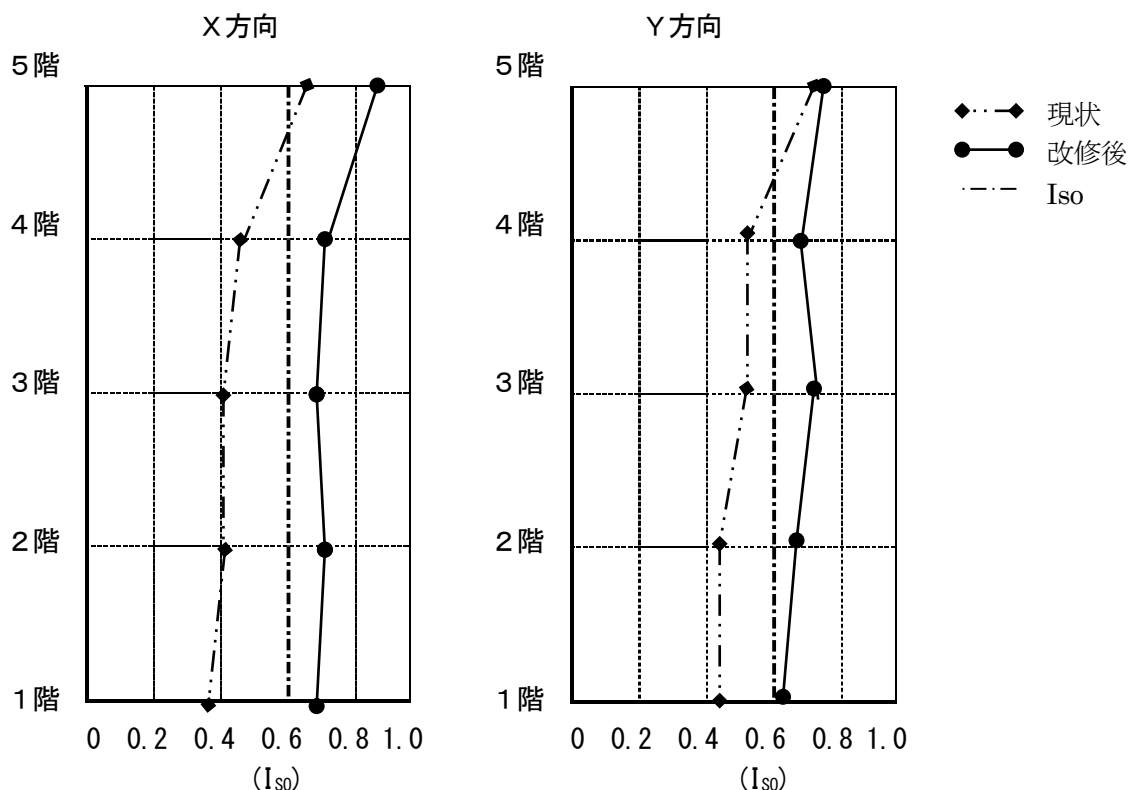
MC: 曲げ柱、MW: 曲げ壁、SG: せん断柱、SW: せん断壁、BC: 極脆性柱 (2次診断)

MG: 曲げ梁支配型柱、SG: せん断梁支配型柱、AW: 回転壁 (3次診断)

注2) () 内は、極脆性柱を考慮した場合の指標値

注3) [] 内は、せん断柱を考慮した場合の指標値 (5) 式にて算定

7-2 I_s比較表 (※現状、改修後、目標値が判る様に凡例を付けてください。)



7-3 改修後の診断結果の考察

注)

- 改修後の耐震性について、改修設計の方針を受けて、目標とする耐震性能とも関連づけて改修後の診断結果について改修設計者としての評価を行い取りまとめてください。

8. 総合所見

注)

- 改修設計者が発注者（建物所有者）に対し、改修設計の内容を総合的に伝えるための重要な事項とし、耐震指標値だけではなく改修設計において調査・検討した結果（調査内容、付属物等の耐震性、基礎構造の耐震性、劣化に対する対処等）を総合的にわかりやすくまとめてください。
- 発注者との協議で決めた診断および改修の方針（例えば、今後の供用年数、改正前の積雪荷重の採用、基礎（杭）や外階段の耐震性を対象外とする、など）は、明確に記述して下さい。
- 鉄骨の溶接部や隣接建物との構造的接合状況など、耐震性の判定に関わる重要事項で未調査項目が残されている場合には、改修工事実施前に調査を行うこと、および調査結果に対する判断基準と耐震性を確保するための対処方法を明記して下さい。

記入例 ・建物の耐震性（耐震性の目標値、現況の診断結果、改修方法、改修後の診断結果（補強を要する階・方向の改修前後の指標値を具体的な数値で示して下さい））

- 現地調査の結果とその所見
- コンクリートの中性化の進行状況の推定結果とその所見
- 鉄骨部材の錆やコンクリートのひび割れ等の表面劣化への対処方法
- 地盤の液状化の判定結果、基礎（杭）の鉛直力、水平力に対する検討結果と

所見

- ・ 付属物（塔屋、煙突、庇等）の耐震性について
- ・ エキスパンションジョイントの地震時の状況
- ・ 積雪荷重の改正にともな合う部材の検討結果
- ・ その他、耐震性に関連する事項

9. 改修計画図

仕様書

注) あと施工アンカーの強度確認方法
コンクリートの目荒らし方法
溶接基準図等

床伏図

注) 改修部材と既存部材を、記号や色分けに等により区別
しやすくしてください。(各図面共通)

軸組図

断面リスト

詳細図等

注)

- ・ 伏図、軸組図、部材リスト、改修詳細図など必要な図面を添付してください。
- ・ 詳細図は改修部位ごとに作成してください。
- ・ 改修詳細図については、鉄筋の納まり、鉄骨の溶接性などがわかるよう縮尺に注意した詳細図を添付してください。

鉄筋コンクリート、鉄骨鉄筋コンクリート造の場合

- ・ 既存部材の鉄筋・鉄骨とあと施工アンカーの取り合いが判る図面
- ・ 耐震スリットの詳細図

鉄骨造の場合

- ・ 改修部材の溶接方法、向き、長さ、サイズを明示してください

10. 参考資料－1 (※改修設計に用いた資料、計算書等)

注)「耐震診断・改修設計」での申請の場合は、他の評定機関等での評定を受けた際の資料(参考資料－2)と、改修設計における検討資料(参考資料－1)をP.6の「目次例」を参考に整理してください。

- ・改修設計時に追加調査した現地調査資料
 - ・調査位置図(複数工区に分けて建設されている場合は、工区分けとその建設年次を併記する)、外観劣化、ひび割れ(調査範囲と未調査範囲を明示する)、レベル測定、鉄骨部材実態調査、溶接部、コンクリート強度試験、コンクリート中性化試験、エキスパンションジョイントのクリアランス等)
- ・今後のコンクリート中性化の深さの推定
- ・C－F関係グラフ(改修前・後を同一線上に示したもの)
- ・破壊モード図(平面、軸組形式等)
- ・各部検討資料
 - ・地盤の液状化の検討
 - ・基礎(杭)の鉛直力・水平力に対する検討
 - ・部材耐力計算、耐震壁の耐力評価、開口付き耐震壁の開口補強筋及び周辺フレームの検討、接合部の設計(後施工アンカー、ブレース接合部ほか)、鉄骨ブレース取り付け部の偏心の検討など
 - ・煙突・庇・鉄骨階段等の付属物の検討等
 - ・形状指標、経年指標の根拠、偏心率、剛性率等)
 - ・その他改修設計に必要とした資料(地盤調査資料、特殊工法の技術資料等)

11. 参考資料－2 (※耐震診断時に用いた資料、計算書等の抜粋)

- ・評定機関等の評定書(例(社)北海道建築設計事務所協会耐震診断判定委員会の判定書等)の写し
- ・耐震診断時(上記委員会)の経過報告書
- ・耐震診断時の調査関連資料
 - ・現地調査関連資料、部材の確認資料、外観劣化、ひび割れ調査資料、溶接部の調査、レベル測定結果、コンクリート強度試験結果、コンクリート中性化試験結果、地盤調査、エキスパンションジョイントのクリアランス等
- ・耐震診断結果に係る資料
 - ・経年指標、形状指標の算出根拠、偏心率、剛性率、破壊モード図診断結果、所見